

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 8 月 26 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02901

研究課題名(和文) EAP教育の開発とその評価 バイリンガリズム理論におけるCALP発達の観点から

研究課題名(英文) From the Perspective of CALP Development in Bilingualism Theory: EAP Education Development and Its Evaluation

研究代表者

河野 円 (Kawano, Madoka)

明治大学・総合数理学部・専任教授

研究者番号：20328925

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、バイリンガリズム理論に基づき、第二言語のCALPの発達をねらいとして、大学の英語教育におけるEAP(English for Academic Purposes)プログラムを設計して開発することを目的とした。EAP教育とは日本の大学生が中等教育における英語教育を土台に、専門的内容を英語でも理解できるまでの橋渡し教育ととらえる。バイリンガル理論の1つ「しぎい仮説」を背景としたバイリンガル教育を参考にし、複数言語の相乗的発達という観点から、主に理系分野の大学1、2年を対象としたコース設計を開発し、有効性を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

EAPプログラム参加者の高校における言語活動の実態を明らかにするために、2018年度、2019年度にわたり11大学において学習者調査を行った。ブルームの改訂版タキソノミー(Anderson & Krathwohl, 2001)における認知レベルを用いて分類した結果、学習者は高校時にレベル2(理解)から5(評価)までの言語経験が少ないことが明らかとなった。この傾向を受けて数理学系、医療系、国際系の大学や学部にて、不足する領域を取り入れた足場掛けを設計し実践、プログラム評価を行った。論理的思考力の養成が重要視されている現在、アカデミックリテラシーを培う一実践例として寄与するものである。

研究成果の概要(英文)：In this project, the researchers attempted to establish an effective EAP program which would help students transit from high school English to academic English. First, they conducted surveys constructed in the framework of revised Bloom's Taxonomy (Anderson & Krathwohl, 2001) at 11 universities. The survey data revealed that experiences of high school graduates were dominantly at low levels of cognitive demand. The results were reflected to the design of the EAP programs, which were planned and implemented with the students majoring in STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics), medicines, and international studies. According to the analyses of students' written products and the post-surveys, the programs seemed to be effective in providing students with scaffoldings of different cognitive demands, and thus preparing students to read and write critically and logically in academic contexts.

研究分野：第二言語習得

キーワード：EAP バイリンガリズム 足場掛け 学習者調査 ブルーム改訂版タキソノミー プログラム開発 プログラム評価 CALP

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究の代表者らは大学英語教育学会 (JACET) バイリンガリズム研究会に所属し、第二言語と思考力の伸長について研究を行ってきた。国内外の先駆的な CLIL や国際バカロレア (IB) プログラムについてそれらの背景となる理論や実地調査研究がその例である。近年では小学校から高校までの教科書分析を行い、高校の検定英語教科書では発問やタスクの認知活動が改訂版ブルームのタキソノミー (Anderson & Krathwohl, 2001, 以下タキソノミー) の低次レベルに集中していることを明らかにした (雑誌論文)。日本の教育現場では、深い思考や論理的コミュニケーション能力の養成の必要性に注目が置かれる社会情勢であった。

2. 研究の目的

本研究は、第二言語の CALP の発達という観点から、バイリンガリズム理論に基づいた、大学英語教育における EAP (English for Academic Purposes) 教育開発を目的とした。EAP 教育とは一般的には英語圏の大学教育を受けるのに必要とされる英語力の養成プログラムを指すが、本研究では、日本の大学生が専門的内容を英語でも理解できるまでの言語力の養成であり、基礎英語からの橋渡し教育ととらえる。学習者が生涯に渡り高度な言語運用能力を身につけていく、いわば CALP の恒常的発達を目標として、その土台作りとなる EAP プログラムを開発することを目指した。この研究に先立ち行ってきたバイリンガル教育の研究成果を活かし、主に理系分野の大学 1、2 年を対象としたコース設計と教材を開発し、有効性を検証することを目的とした。

3. 研究の方法

上記研究目的を達成するため、以下の 3 つのアプローチを用いた。

(1) EAP 教育に関わる理論研究と調査

必要とされる英語力の概念化を試みた。高等 (大学) 教育レベルにおける CALP の発達 (sustainable development of CALP) と EAP 教育の概念に関する文献研究により、学習者が目標とすべき英語力やスキルを検討した。

一方、2017 年度から 2019 年度前半にかけて国内外の EAP、CLIL および IB プログラムを行っている教育機関の調査を行った。それらのプログラムにおける基礎科目としての英語の位置付けや言語教育に焦点をあて、学校訪問およびヒアリング調査を実施した。

(2) EAP 教育における学習者調査の設計と実施

日本の EAP 学習者の Present Situation Needs (Hyland, 2006) を明らかにする質問紙調査を計画、パイロット実施を行った後に本調査を実施した。調査項目はタキソノミーの認知カテゴリーを用いて、高校の指導要領に含まれる活動の経験を尋ね、同時に英語学習についての目標を尋ねた。実施はムードル及び紙で実施し、11 の大学で実施した。実施に先立ってそれぞれの大学や学部で倫理審査を経て学生に趣旨説明を行った上で研究参加を募った。

(3) EAP 教育プログラム開発と評価

事前学習者調査に基づいて教育プログラムを開発、試行して評価した。特にアカデミックリーディングとライティングの観点から、プログラム実施期間中に学習者が産出したデータと教育実践者の振り返りを記録した。プログラム終了時に質問紙調査を行い、事前調査の結果と比較し、加えて学習者の提出物を質的に分析してプログラム評価を行った。

4. 研究成果

(1) EAP 教育に関わる理論研究と調査

2017 年度、2018 年度は EAP 関連の論文や著書を研究者間で輪読をして基礎理論を確認した。国際バカロレア (IB) 教育とその教員養成課程について講師を招いて公開講演会を開催、また IB の科目 Theory of Knowledge の理論と指導法について有識者を招き公開ワークショップを実施し、言語教育という視点から IB 教育の特徴を発表した (学会発表)。一方、海外の教育調査として台湾の高等学校の教科書調査を行い教材として文学作品の使用方法などを考察し論文にまとめた (雑誌論文)。新型コロナウイルスの感染流行が始まる 2019 年度までシンガポールの IB 校、イギリスの EAP 教育調査として、BALEAP (EAP 教員の団体) 大会への参加、ロンドン大学 SOAS の EAP プログラム調査を行った。そしてアメリカの大学におけるライティング教育調査のためハワイ大学マノア校 Second Language Studies にて教員ヒアリングやカリキュラム・教材調査などの長期調査を行い論文にまとめた (雑誌論文)。これら国内外のプログラム実施調査では貴重な資料や情報を収集することができた。

(2) EAP 教育における学習者調査の設計と実施

EAP プログラム参加者の高校における言語活動の実態を明らかにするために、タキソノミーの認知レベルと学習指導要領に基づく 27 項目を設計し調査を行った (学会発表)。調査項目は CEFR レベルでの英語力、高校での英語授業で行った活動、英語以外の科目での活動、英語学

習のモチベーションを網羅するものであった。2018年度、2019年度にわたり、関東、九州の11大学において参加者合計 895 人を対象に事前調査を行った結果、概して学生は高校の時にレベル2 (理解) から5 (評価) までの認知活動を伴う言語経験が少ないことが明らかとなった。調査実施を行った私立大学理系学部1年生において、高校英語で経験した活動は認知負荷と活動の頻度を表すグラフが高次と低次は高く、それらをつなぐ図表を読み解いたり多読をしたり、評価を行う活動の頻度が少ないUカーブになっていた(雑誌論文)。

また、そのうちの1つの学部にてさらにライティング活動について詳細なアンケート調査を行ったところ、参加者は高校の時に自分の考えを論理的に組み立てて表現する活動を行った経験に乏しいことがわかった(雑誌論文)。これらの学習者調査より本研究参加者は、大学において段階的に認知や知識のレベルを上げる、英語での活動が必要とされることが明らかとなった。

(3)EAP 教育プログラム開発と評価

上記調査の結果を受けて数理科学系、医療系、国際系の大学や学部にて、タキソノミーの6つの認知領域(1-Remember, 2-Understand, 3-Apply, 4-Analyze, 5-Evaluate, 6-Create)を徐々にレベルアップする足場掛けを伴うプログラムを設計し実践した。授業でとりいれた活動や教材についてもそれぞれが学会発表を行った。医療系学部ではクリティカルリーディングやショートリサーチ等で主体的で深い学びを伴う協働学習を経験させるプログラムを実施した(学会発表)。また、数理科学系学部においては、タキソノミーの知識領域(A-Factual, -Conceptual, C-Procedural, D-Metacognitive)を網羅する EAP リーディングプログラムを設計した。実施後、再び英語学習で経験した活動を問う事後調査を実施して比較したところ、記述統計にて有意差が見られた。読んだ英文を評価した学習者ライティングからも、高度な思考を伴うリーディング活動を経験していることが示された(雑誌論文)。

一方、同じ学部においてライティング指導として論理的な流れを重視しながら意見文を書く指導案を構築し試行した。数回の実践後、トピックセンテンスや主張の一貫性、段落構成の点では指導効果が見られたものの、結束性やタスクへの関連性の点で課題があることが明らかとなった(学会発表)。英語ライティング指導は今後、EAP プログラムでさらに探求されなければならない分野であろう。

これらの研究から、EAP プログラムに2つの教育的示唆が考えられる。まず、EAP プログラムにおいては、タキソノミーの認知と知識の領域を網羅することを意識した設計を行うことである。特にリーディング活動については、表面的な記憶や理解という活動に留まらず、応用、分析、評価といった活動を英語で行うことにより、第2言語のCALPを伸長し、学習内容を概念化することとなる。そしてリーディング活動で得た思考過程をライティングに応用し論理的な書き方を習得するのである。読み手の視点に立ち抽象的な概念を効果的に伝えるアカデミックライティング演習が望まれる。本研究で得た成果が、論理的思考力の養成が重要視されている日本の第二言語教育の一助となることが期待される。

<引用文献>

- Anderson, L. W. and Krathwohl, D. R., et al (Eds.). (2001) *A Taxonomy for Learning, Teaching, and Assessing: A Revision of Bloom's Taxonomy of Educational Objectives*. Allyn & Bacon
Hyland, K. (2006) *English for Academic Purposes*. Routledge

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計10件)

- 河野 円・鈴木 広子 (2021) 概念理解に基づいた EAP 教育の設計と評価 『JACET 関東支部紀要 No.9』 98-114
河野 円 (2021) 日本の EAP プログラムにおける効果的なライティング指導 『明治大学人文科学研究所紀要 88』 136-164
Kawano, M (2019) 理系学部入学生のパラグラフ・ライティング調査 - レベル別差異の分析 *Annual Report of the JACET-SIG on ESP, Vol 20* 28-32
河野 円・鈴木 広子 (2019) 理系学生を対象とした EAP 教材の開発 足場掛けの設計試案 *JAAL in JACET Proceedings 1* 172-75
鈴木広子 (2019) 初年次学生の学び方における課題 - 学習者調査の分析から 『大学教育開発研究センター研究紀要 4』 53-64
平井 清子 (2018) 戦後台湾の英語教科書における題材内容研究: 「文学」の特徴をとらえて 『日本英語教育史研究 34』 51-80
Hirai Seiko (2018) Fostering good English abilities that synergistically incorporate critical thinking in Japanese medical professionals facing the challenges of globalized societies: The value and usefulness of JASMEE Guidelines. *Journal of Medical English Education Vol.17 (1)* 24-27
Kawano, M & Nagakura, W (2017) Teaching how to think and write. *The Asian Conference on Language Learning 2017 Official Conference Proceedings 7* 269-285
鈴木広子 (2017) 基礎英語科目における学びの問題点-大学初年次学生の学習者調査に向けて 『東海大

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

学教育開発研究センター 2』61-68

大学英語教育学会(JACET)バイリンガリズム研究会(河野円・鈴木広子・平井清子)発問が思考力を育てる—海外の英語教科書から 『英語教育5月号』大修館 24-25

[学会発表](計19件)

河野 円 (2020) 大学における5段落エッセイ(Five-Paragraph Essay)を用いたライティング指導 - 議論構成に焦点をあてて, 第3回JAAL in JACET 学術集会

Kawano, M & Betsy Gilliland (2020) Raising Critical Thinking in L2 Writing Pedagogy: Perspectives from the United States and Japan, Asia TEFL 2020

安西弥生・河野 円 (2020) ICT を利用した EAP 基礎から応用スキル導入のヒント集, JACET 第13回(2020年度)関東支部大会

Kawano, M (2020) March, 2020 Teaching Reading, Writing, and Thinking Critically in English Classes in Japan, Brown Bag Talk, Second Language Studies, University of Hawai'i

平井清子 (2019) 戦後台湾の英語教育の発展過程: 1950年~1979年題の教科書研究から, 日本英語教育史学会

平井清子・森景真紀 (2019) 主体的で深い学びを伴う英語学習の提案-大学1,2年次医学部の授業から, 全国英語教育学会第45回弘前研究大会

Kawano, M & Suzuki, H (2019). Effects of Instructive Scaffolding in a Science EAP Program: Analyses of Students' Writings and Pre- and Post-learner Surveys. JACET 58th International Convention

平井清子・清水友子 (2019) EAP プログラムの設計と実践—学習者調査からのアプローチ—, 大学英語教育学会(JACET) 第12回関東支部大会

KAWANO, M. (2019) Tips to Teach L2 Writing and Logical Thinking Skills in EAP Courses, 54th RELC International Conference, Singapore

平井清子、蒲原順子 (2019) 大学1,2年生を対象としたEAP教材の開発に向けて: 足場掛けの設計と実践, 言語教育エキスポ 2019

鈴木広子・平井清子・河野円 (2018) 大学入学時の学習者調査から示唆される EAP 教育へのアプローチ, 全国英語教育学会第44回京都研究大会

平井清子 (2019) 台湾英語教育史の概観 - その改革と発展過程, 第195回東アジア英語教育研究会

Suzuki, H & Kawano, M. (2018) How University First-year Students Understand and Perceive "Learning" English: Its Design and Results, JACET 57th International Convention

河野円・清水友子 (2018) 思考に焦点をあてたEAPプログラム開発 ニーズ分析パイロット調査に向けて, 言語教育エキスポ 2018

河野円(2017) IB ディプロマ・プログラムにおける第二言語教育からの示唆, 探求型英語教育研究会

河野円 (2017) English B の教材が日本の英語教育に何を示唆するか, 母語・継承語・バイリンガル教育研究会 2017年度研究大会

Nagakura, W & Kawano, M (2017) An Analysis of Logical Flow in Japanese University Students' Argumentative Writing and Suggestions for Instruction, Symposium of Second Language Writing, Vancouver

平井清子・鈴木広子・河野円 (2017) 高校英語から大学 ESP 教育への橋渡し教育のあり方 - 思考を伴う「発問とタスク」にフォーカスして—, LET 関東支部第138回(2017年度)研究大会

平井清子 (2017) グローバル社会で活躍する医療人に求められる英語力養成の試み, 第20回日本医学英語教育学会学術集会

[その他]

ホームページ等

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~mkawano/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

平井 清子 (HIRAI, Seiko) 北里大学・一般教育部・教授 研究者番号 60306652

鈴木 広子(SUZUKI, Hiroko) 東海大学・教育研究所・教授 (2017年度-2019年度 研究分担者) 研究者番号 50191789

(2) 研究協力者

飯田 深雪(IIDA, Miyuki) 神奈川県立国際言語教育文化アカデミア・准教授 研究者番号 90328998

清水 友子(SHIMIZU, Tomoko) 拓殖大学 非常勤講師

長倉 若 (NAGAKURA, Wakasa) コロンビア大学ティーチャーズカレッジ・上席研究員

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 河野円・鈴木広子	4. 巻 8
2. 論文標題 概念理解に基づいたEAP教育の設計と評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 JACET-KANTO Journal	6. 最初と最後の頁 98-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河野円	4. 巻 88
2. 論文標題 日本のEAPプログラムにおける効果的なライティング指導	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明治大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 135-164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 河野円	4. 巻 20
2. 論文標題 理系学部入学生のパラグラフ・ライティング調査ーレベル別差異の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Annual Report of the JACET-SIG on ESP	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 鈴木広子	4. 巻 4
2. 論文標題 初年次学生の学び方における課題 学習者調査の分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東海大学教育開発研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 53-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平井清子	4. 巻 34
2. 論文標題 戦後台湾の英語教科書における題材内容研究：「文学」の特徴をとらえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本英語教育史研究	6. 最初と最後の頁 51-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野 円、鈴木 広子	4. 巻 1
2. 論文標題 理系学生を対象としたEAP教材の開発 足場掛けの設計試案	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 JAAL in JACET Proceedings	6. 最初と最後の頁 172-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hirai, S	4. 巻 17 (1)
2. 論文標題 Fostering good English abilities that synergistically incorporate critical thinking in Japanese medical professionals facing the challenges of globalized societies: The value and usefulness of JASMEE Guidelines	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Medical English Education	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawano, M. & Nagakura, W	4. 巻 7
2. 論文標題 Teaching how to think and write: Realities and suggestions on writing instruction in English education in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 The Asian Conference on Language Learning 2017 Official Conference Proceedings	6. 最初と最後の頁 269-285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 鈴木広子	4. 巻 2
2. 論文標題 基礎英語科目における「学び」の問題点 大学初年次学生の学習者調査に向けて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東海大学教育開発研究センター 研究資料集	6. 最初と最後の頁 61-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大学英語教育学会(JACET)バイリンガリズム研究会 (河野円、鈴木広子、平井清子)	4. 巻 5月号
2. 論文標題 「発問」が思考力を育てるー海外の英語教科書から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 英語教育	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 河野円
2. 発表標題 大学における5段階エッセイ (Five-Paragraph Essay) を用いたライティング指導
3. 学会等名 第3回JAAL in JACET学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kawano, M & Betsy Gilliland
2. 発表標題 Raising Critical Thinking in L2 Writing Pedagogy: Perspectives from the United States and Japan
3. 学会等名 Asia TEFL 2020 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安西弥生・河野 円
2. 発表標題 ICTを利用したEAP基礎から応用スキル導入のヒント集
3. 学会等名 JACET第13回(2020年度)関東支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Madoka Kawano, Hiroko Suzuki
2. 発表標題 Effects of Instructive Scaffolding in a Science EAP Program: Analyses of Students' Writings and Pre- and Post-Learner Surveys
3. 学会等名 The 58th JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Madoka Kawano
2. 発表標題 Teaching Reading, Writing, and Thinking Critically in English Classes in Japan
3. 学会等名 University of Hawai'i at Manoa, Second Language Studies, Brown Bag Lecture (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平井清子
2. 発表標題 戦後台湾の英語教育の発展過程：1950年～1970年代の教科書研究から
3. 学会等名 日本英語教育史学会 第35回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井清子・清水友子
2. 発表標題 EAPプログラムの設計と実践 学習者調査からのアプローチ
3. 学会等名 JACET第12回関東支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井清子・森景真紀
2. 発表標題 主体的で深い学びを伴う英語学習の提案-大学1,2年次医学部の授業から
3. 学会等名 全国英語教育学会第45回弘前研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawano, M
2. 発表標題 Tips to Teach L2 Writing and Logical Thinking Skills in EAP Courses
3. 学会等名 54th RELC International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kawano, M. & Nagakura, W
2. 発表標題 A Teaching Approach to Develop Basic Academic Writing Ability and Logical Thinking Skills for Japanese University Students
3. 学会等名 ACLL2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野円、長倉若
2. 発表標題 大学入学時の英語パラグラフ・ライティング力調査からの提案
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Nagakura, W & Kawano, M
2. 発表標題 M. An Analysis of Logical Flow in Japanese University students' Argumentative Writing
3. 学会等名 Symposium of Second Language Writig 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Suzuki, H. & Kawano, M
2. 発表標題 A Survey on How University First-year Students Understand and Perceive "Learning" English: Its Design and Results
3. 学会等名 57th JACET International Conference, Sendai (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木広子、平井清子、河野円、
2. 発表標題 大学入学時の学習者調査から示唆されるEAP教育へのアプローチ
3. 学会等名 全国英語教育学会第44回京都研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木広子、河野円、平井清子
2. 発表標題 理系学生を対象としたEAP教材の開発 足場掛けの設計試案
3. 学会等名 JAAL in JACET
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平井清子
2. 発表標題 戦後台湾の英語教科書における政治的影響の考察 『課程標準(1971年)』準拠高等学校英語教科書の題材内容研究から
3. 学会等名 アジア教育学会 第25回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平井清子
2. 発表標題 戦後台湾の英語教科書における題材内容研究：「文学」の特徴をとらえて
3. 学会等名 日本英語教育史学会 日本英語教育史学会第269回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平井清子、蒲原順子
2. 発表標題 大学1,2年生を対象としたEAP教材の開発に向けて：足場掛けの設計と実践
3. 学会等名 言語教育エキスポ2019 JACET 教育問題研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平井清子
2. 発表標題 台湾英語教育史の概観 - その改革と発展過程
3. 学会等名 第195回東アジア英語教育研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野円, 清水友子
2. 発表標題 思考に焦点をあてたEAPプログラム開発 ニーズ分析パイロット調査に向けて
3. 学会等名 言語教育エキスポ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野円
2. 発表標題 IBディプロマ・プログラムにおける第二言語教育からの示唆
3. 学会等名 探求型英語教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野円, 長倉若
2. 発表標題 大学初年次におけるパラグラフ・ライティング指導の背景と指導試案
3. 学会等名 全国英語教育学会第43回島根研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野 円
2. 発表標題 English B の教材が日本の英語教育に何を示唆するか
3. 学会等名 母語・継承語・バイリンガル教育研究会2017年度研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kawano, M., Elwood, J. & Shibasaki, R.
2. 発表標題 Active Learning through Poster Sessions: Ongoing Development of a Presentation Course
3. 学会等名 JACET 2017 International Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平井 清子, 河野 円, 鈴木 広子
2. 発表標題 高校英語から大学 EAP 教育への橋渡し教育のあり方 - 思考を伴う『発問とタスク』にフォーカスして
3. 学会等名 外国語教育メディア学会 (LET) 関東支部第 138 回 (2017 年度) 研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 平井清子
2. 発表標題 グローバル社会で活躍する医療人に求められる英語力養成の試み
3. 学会等名 第20回日本医学英語教育学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ESP教育の開発とその評価－バイリンガリズム理論におけるCALP発達の観点から
<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~mkawano/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鈴木 広子 (Suzuki Hiroko) (50191789)	東海大学・付置研究所・教授 (32644)	2017年度-2019年度 研究分担者 2020年度 研究協力者
研究分担者	平井 清子 (Hirai Seiko) (60306652)	北里大学・一般教育部・教授 (32607)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	飯田 深雪 (Iida Miyuki)	神奈川県立国際言語教育文化アカデミア・准教授	
研究協力者	清水 友子 (Shimizu Tomoko)	拓殖大学・非常勤講師	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	長倉 若 (Nagakura Wakasa)	コロンビア大学ティーチャーズカレッジ・上席研究員	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関